

植生・植栽管理

利用・安全

●台地部 (A-1)

- ・七十七場を構成する文化財と調和する景観を維持、向上させる管理を行う。
- ・文化財を覆い隠してしまう樹木、落枝・倒木等により文化財の棄損を招くおそれのある樹木は、適正に措置する。

●梅林・哲学の庭 (B-2)

- ・ウメの花や姿が際立つ明るさになるよう、周辺の大きく成長した樹木の剪定等を行う。

●運動広場周辺 (B-5)

- ・サクラ並木の維持に努める。
- ・外周部の遮蔽植栽については、その機能を保ちながら、擁壁の安全性等にも配慮して管理する。

●エントランス (B-6)

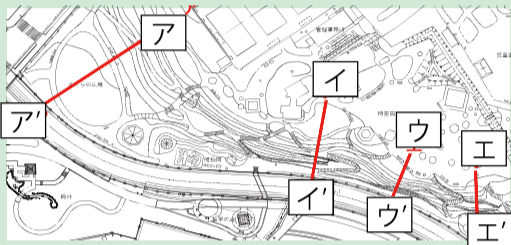
- ・歩道脇の低木刈込等により、エントランスとしての景観の維持、向上を図る。
- ・イチヨウ並木を将来的に維持していく。

●児童遊園 (B-4)

- ・伐採跡周辺への新たな植樹等により、遊び場の景観と調和する緑陰形成を図る。

●つつじ園・菖蒲池 (B-1)

- ・成長しすぎたツツジを整え、景観を回復する。
- ・菖蒲池周囲のハナショウブを充実させる。



短～長期

●斜面地周辺 (A-2、A-3、B-3) の斜面林

- ・当地の自然植生*が優占する、豊かな階層の樹林構成を目指した保全・管理を進めることで、植生の健全性や生物多様性、景観の維持・向上を図る。
- ・以下ア～エのように、場所ごとの違いを考慮した将来目標を設定し、環境の急激な変化を避けながら、少しずつ目標とする植生へと近づけていく。

*園内に見られる構成種：シラカシ、エノキ、ムクノキ、コナラ、シデ類等 (都環境局ガイドラインを参照)

健全な樹林を後世に継承するための取組 (主に斜面地)

「クスノキ」成長が早く巨木化するため、根が園路や文化財施設を壊しているものや、林内の日照を極端に遮るものは選択的に伐採し、後継として自然植生のシラカシを育てていく。
 「トウネズミモチ」園内に広く繁茂するが、外来生物法で要注意外来生物に指定され、他植物の生育を阻害するため、数を減らしていく。

現況・課題

将来目標とする植生

ア (さくらの広場の上部)

スロープ園路周辺で木々が混み合う場所があるほか、さくらの広場は裸地化している。

高木層は常緑広葉樹を中心とした安定した樹林への遷移を見守っていき、園路周辺においては、見通しの確保に努める。サクラの広場は土壌の耕うん等により、草地等の景観形成を図る。

イ (唯物園・経験坂周辺)

林床植生が未発達のため、急斜面で地表面の土砂が流出している。また、園路にクスノキの根が張り出し危険である。

明るい常落混交林として林床植生の育成を図るとともに、園路周辺に見通しを確保する。

ウ (三祖苑・独断峡周辺)

根が石積に入り込み、崩壊させる恐れがある。川沿いに密集する常緑樹や斜面に繁茂するアズマネザサにより、鬱蒼としている。

石積の安全性を調査し、影響する樹木を適正に処置する。川沿いの常緑樹は適度に間引きを行い、アズマネザサは斜面の安定に寄与するため、刈込で維持する。

エ (唯心庭・論理域周辺)

常緑広葉樹の侵入等により薄暗い空間となり、心字池の水質低下や枯れ枝の発生を招いている。

落葉樹主体の明るい樹林として維持し、心字池周辺に季節を感じられる景観を形成・維持していく。